

事業実施主体名: 孀恋あいさいの村づくり協議会

7 年 5 月 22 日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(※1)	取組概要(※1)
群馬県 孀恋村	R5	活動計画策定事業	

(注)※1には、別表に記載の内容から該当するものを転記すること。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

・総合的に事業実施の成果は低調と認められる。・事業実績の目標としたSNSフォロワー数の成果低調が要因であるが、ホームページ開設に比較してSNS開設は比較的容易である。過密な活動実施によりSNS未着手とのことだが構えずに着手できなかったのか。

2. 低調と評価された要因

事業実績の目標としたSNSフォロワー数についてSNS立ち上げに至らなかった。

3. 目標達成に向けた方策

引き続き連携する組織との活動に取り組み、事業実績の維持向上に努められたい。実績が低調であったSNSフォロワー数については多様な連携組織との取組経緯を積極的に発信し、イベント参加者に感想を書き込んでもらうなどフォロワー数を増やす試みを積極的に実施されたい。

4. 改善状況

SNSを月に4～5回発信し続けている。SNSフォロワー数571人が2025年7月29日現在の数字。2年目の目標値600人に対し、ほぼ達成の数字となっている。
あいさいの村づくり協議会 Facebook 377人 Instagram 64人
あいさいファーム(農業体験観光チーム) Instagram 78人
あいさい富動産(農村集落移住チーム) Instagram 52人

事業実施主体名:一般社団法人茨城県古民家再生協会協議会

令和7年5月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
茨城県 古河市	令和3年度	農泊推進型	市町村・中核法人実施型

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

①評価委員会での評価コメント

- ・取組状況(体験プログラム参加者数)の数値目標が過大である。
- ・宿泊施設の稼働率を把握しているのか。
- ・ターゲットがインバウンドに限定しているため、顧客の検討が必要である。

②目標達成に向けた指導・助言等

顧客ニーズに沿った体験プログラムの検討を行うほか、今回、施設整備を行った宿泊施設が地域振興の貢献に結びつくための方策を検討し、事業実績の向上に努められたい。

2. 低調と評価された要因

- ・予約は、OTAサイト「Booking.com」のみの活用であったが、利用者からのいたずらによるフェイクの予約申し込みが多く、思うような誘客が行えなかったため。
- ・宿泊料金が高額な設定であったため。

3. 目標達成に向けた方策

- ・「Booking.com」以外のOTAサイトを検討する。
- ・宿泊料金の見直しを検討する。
- ・新たな体験プログラムの造成を検討する。

4. 改善状況

- ・「Booking.com」以外のOTAサイトとして、「Airbnb」、「Gloce」、「じゃらん」への登録を行った。
- ・宿泊料金の体系を1棟貸しほかに、1名あたりの料金への見直し、プライベート空間を維持した各部屋(全4部屋)ごとの利用も可能とした。
- ・観光庁の補助事業である「地域観光魅力向上事業」の採択を頂けたため、日光街道で江戸体験と銘打ち、コンテンツ造成を行い、翌年、旅行商品として販売する計画となっているため、裏日光街道の宿場としてさらなる魅力向上に努めます。

事業実施主体名：とよとみ農泊推進協議会

令和7年5月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
山梨県 中央市	令和4年度	農泊推進型	農泊推進事業

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

①評価委員会での評価コメント

- ・他の交付金による宿泊施設の施設整備ができなかったため、農泊の活動ができなかったとのことであるが協議会内での他の宿泊施設は活用できなかったのか。
- ・農泊における交付金の実績額もかなり少なく事業の組み立て及び方向性が間違っていたのではないか。

②目標達成に向けた指導・助言等

今年度、事業再構築補助金(経済産業省)の申請を予定されているが、当該補助金の活用が出来ない場合は、農泊を自立的かつビジネスとして持続的な活動が行えるよう、他の宿泊施設を活用するなど事業の組立てを検討し、事業実績の向上に努められたい。

2. 低調と評価された要因

- ・「事業再構築補助金」に申請し、味噌蔵を宿泊施設の改修整備に係る支援を受けようとしたが、不採択となったため、施設整備ができなかった。
- ・協議会内の唯一の宿泊施設の「シルクふれんどりい」が老朽化により令和5年9月2日から令和6年7月1日まで大規模改修により休館していたため、協議会としての活動も思うように出来なかった。
- ・上記の事情から核となる農泊施設と各種コンテンツの一体的な取組をHPやSNSにより情報発信ができなかった。

3. 目標達成に向けた方策

- ・味噌蔵を宿泊施設に改修するにあたり、再度、「事業再構築補助金」を申請するが、仮に採択されない場合は、他の補助金もしくは自己資金での改修を検討していく。
- ・改修が行えない場合は、「シルクふれんどりい」を核に各種体験を実施していく。
- ・協議会の構成員の見直しや他の組織との連携を通じ、地域一体となるプログラムを再構築していく。
- ・先進地視察などに積極的に参加し、ノウハウの取得や既に農泊を行っている方のアドバイスをいただき、今後の活動に活かしていく。

4. 改善状況

- ・令和6年11月13日に新潟県妙高市にある農泊地域の先進地視察を実施し、意見交換を実施した。
- ・同年11月23日に中央市と連携し、顧客勧誘、魅力発信のためトレイルランニング、キャンプ等のイベントを開催した。参加者にはメニュー開発した郷土料理「与一汁」を参加者に振舞った。
- ・同年12月10～11日に農泊体験(モデルツアー)を開催し、ドライフラワー体験、地域の歴史や文化に触れる豊富郷土資料館の見学、繭玉工作体験、野菜の収穫体験の後にBBQ(ペーストヨトミ)を実施した。(宿泊及び朝食・夕食は「シルクふれんどりい」)
- ・上記のモデルツアーを通じ、「シルクふれんどりい」で提供する食事メニューの試作品などについて参加者から頂いた意見を踏まえ、今後、見直しを図る。
- ・「事業再構築補助金」は採択されなかったが、協議会メンバーが古民家の改修を行ったため、農泊事業の活用に向けて検討を進める。
- ・里山再生プログラムの構築するため山梨県や民間企業と連携し、「シルクふれんどりい」を拠点とした、インターナショナルスクールのツアーを検討している。(子供目線による課題解決が期待される。

事業実施主体名:海野宿農泊推進協議会

令和7年5月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
長野県 東御市	令和4年度	農泊推進型	農泊推進事業、人材活用事業

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

①評価委員会での評価コメント

- ・自主事業による宿泊施設の施設整備ができなかったため、売上高・宿泊客数の実績はなかったが、体験プログラムや食事メニューの開発は実施できていると考えられる。
- ・今年度、宿泊施設の整備が完了するため、誘客に結びつけることで農泊の推進が期待できる。

②目標達成に向けた指導・助言等

宿泊施設が完成後の誘客による地域振興に向けて、金融機関・市役所が抜けた後の新たな協力体制の整備が望まれる。

2. 低調と評価された要因

古民家を宿泊施設する改修するにあたり、金融機関との資金調達の話しがまとまらなかったため。

3. 目標達成に向けた方策

- ・宿泊施設の整備を必要最小限に抑え、金融機関に頼らずに自己資金による施設(寝室・浴室・トイレ改修・簡易キッチン)の改修を進める。
- ・改修後は、旅館業法等の許可申請を行うとともに、OTAサイトへの登録を行う。

4. 改善状況

宿泊施設の改修を終え、

- ・令和6年10月に消防法、11月に旅館業法や保健所の許可を取得した。
- ・令和7年1月に開業し、4月にOTAサイト「Booking.com」の登録を行った。(「Airbnb」も登録を行う予定。)
- ・宿泊と醸造体験(味噌・醤油仕込み)等を絡めたプラン提供のほか、SNS(インスタグラム)による情報発信を通じ、誘客に取り組んでいる。

事業実施主体名:藤枝地域活性化推進協議会

令和7年5月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
静岡県 藤枝市	令和4年度	農泊推進型	農泊推進事業

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

①評価委員会での評価コメント
 飲食・体験については順調であると考えられるが、宿泊客数が大幅減となっている。これは、地域における飲食店や体験事業などについての販売力はあるが、滞在していただく宿泊事業者の現状がどうなっているかが課題である。

②目標達成に向けた指導・助言等
 今後は、代替できる宿泊事業者を募り、実施体制の整備や再構築を行うことが望まれる。

2. 低調と評価された要因

- ・当初予定していた宿泊事業者の不参加や開業延期により確保ができなかった。
- ・農泊事業者の人手不足等から宿泊体験に力を割けず、茶業>宿泊となる対応となった。
- ・周知や販売力が限られたことにより、売上が伸び悩んだ(売上を押し上げたのは主に飲食コンテンツ)。
- ・静岡市のベッドタウン地の印象を払拭する十分な体験や宿泊コンテンツの打ち出しまでがやりきれなかった。
- ・協議会構成員は飲食関係のメンバーが多いことから、宿泊の売上より通常営業の努力により飲食などの売上げは底上げされた。

3. 目標達成に向けた方策

- ・宿泊事業者の減少に対して、開業予定の農泊施設「つむぎ宿 藤」に早いタイミングで合流、連携していただく。(令和6年度中に許認可取得の上、合流)
- ・「つむぎ宿 藤」の稼働にあわせて、特徴ある宿をキーにして宿泊やプログラムを周知していく。サウナは独自性が高く、サウナユーザーへのニーズに充足できるコンテンツであると思われるため、本プログラムをブックにPRをし、誘客を促していく。(令和6年度中にサウナユーザーに向けて主にSNS等にて情報をPRしていく)
- ・藤枝市エリアは静岡市のベッドタウン化しており宿泊施設自体がかなり少ないが、本協議会の目的に合う賛同いただける宿泊施設に年度内をめどに声掛け、参画を呼びかけていく。
- ・単純に宿泊者数を増やすというよりは、特徴を打ち出し、地場モノを体感しつつ滞在を(長く)促していければと考える。まだまだそうした施設自体が少ないため、ニーズを掘り起こしつつ、数よりは質に重きをおいた地域滞在を進めていきたいと考える。

4. 改善状況

①農泊施設の追加
 農泊施設「つむぎ宿 藤」が協議会事業に参画(2025年1月からOTAによる予約開始)。つむぎ藤は、築100年の古民家を県産材等でリノベーション、竹を使ったログハウス調の大型サウナも併設する。藤枝のお茶を使ったサウナや、隣接する有機農家の収穫体験などのメニューも展開する。(1日1組、最大9名、33,000円)

②体制の強化
 有機茶農家の「(有)人と農・自然をつなぐ会」と連携し、生産工場(2024年度農林水産業みらい基金を活用)を見学できる観光工場やマルシェを展開を調整。

③個性的なOTAによる周知
 「つむぎ宿 藤」のコンテンツについては、サウナ系国内最大サイトへの登録やZ世代などに人気の個性的宿泊サイトなどへ登録し、露出拡大を図る。

④県ガストロミーツーリズムとの連携
 静岡県ガストロミーツーリズム事業と連携し、本協議会メンバー先のコンテンツ(朝ラーメン体験や茶畑ヨガ体験、田舎体験)を発信し、誘客やPRを実施した。

⑤2次交通事業との連携
 静岡鉄道(株)等が実証するAIオンデマンド交通事業に参画し、乗車利用者には協議会メンバーの特典クーポン(魚時会館おさかな亭ではランチの値引き、まるか村松商店では大判焼きプレゼントなど)を提供した。

事業実施主体名:奥佐野農泊推進協議会

令和7年5月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
栃木県 佐野市	令和5年度	農泊推進型	農泊推進事業、人材活用事業

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

①評価委員会での評価コメント
 ・人材活用事業における研修生が一身上の都合により活動終了であったため、観光資源調査ができなかったとのことだが、協議会が担うべき当該調査をどのように考えていたのか。
 ・宿泊施設のコネクト(アロマ等)と一部の宿泊客とのニーズが一致しなかったため、宿泊客数が伸び悩んだとあったが展望はどうだったのか。

②目標達成に向けた指導・助言等
 農泊を自立的かつビジネスとして持続的な活動が行えるよう実施体制を検討するほか、宿泊客のニーズを把握した上でコンセプトの見直しを行う際は、関係者とのコンセンサスの形成に努められたい。

2. 低調と評価された要因

- ・宿泊・飲食事業の展開を担う予定であった研修生が家庭の事情により活動を終了してしまったこと。
- ・事業期間が11月～3月と短く協議会構成員や研修生も体験プログラムの実施に向けた準備等に追われて観光資源調査を実施することが出来なかった。
- ・体験プログラムの計画・準備・実施に労力を要し、マンパワー不足による宿泊プロモーション及び人材の発掘が行えなかった。
- ・協議会のホームページを立ち上げたが、発信不足により認知度が向上しなかった。
- ・地域住民は、里山再生への関心や事業に対する合意はあるものの参加協力までには至らなかった。

3. 目標達成に向けた方策

- ・25年余の活動実績のある「NPO法人エコロジーオンライン」(佐野市)と連携し、地域特性と体験プログラムを活かした農泊のプロモーションの展開を図るほか、SNSによる情報発信を強化する。
- ・クラウドファンディングによる賛同支援を要請する。
- ・地元の野草を味わう講座や休耕地での有機農業による体験講座などのプログラムの造成にチャレンジする。

4. 改善状況

- ・令和6年11月23日に実施した「多田里山スクール」では、「NPO法人エコロジーオンライン」による協力のもと、「地域特性と体験プログラムを活かした宿泊プロモーション」を同法人が運営するSNS(Instagram、X、Meta等)を活用し、里山スクール事業の取り組み内容について周知を実現した。今後は、「NPO法人エコロジーオンライン」が独自に展開する農福連携事業等とも連携を図ることで、奥佐野推進協議会として地域活性化のさらなる基盤構築を進めていく。
- ・地元の野草を味わう講座や休耕地での有機農業体験講座など地域目線のプログラムを実施し、農泊事業の地域浸透と外部からの参加者との交流を図ることができた。

事業実施主体名:奥多摩古民家活用協議会

令和7年5月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
東京都 奥多摩町	令和5年度	農泊推進型	農泊推進事業、人材活用事業

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

①評価委員会での評価コメント

- ・ソフト事業は宿泊施設の整備と一体的に実施しているため、宿泊施設が完成した際はソフト事業の売上高等も伸びていくのか。
- ・誘客のターゲットは、どの程度絞り込んでいるのか。
- ・宿泊施設が完成した際は、レストランが提供する食事のほかに体験事業への相乗効果も望まれる。

②目標達成に向けた指導・助言等

宿泊施設が完成後は、相乗効果を発揮するために誘客への工夫を講じ、事業実績の向上に努められたい。

2. 低調と評価された要因

- ・古民家の補強・修復、天候不良等による全体工事が遅れ、売上の核となる飲食施設の開業遅延に伴い、令和5年度の営業ができなかった。
- ・事業実施期間3か月の中で地域事業者と連携し、サービス・飲食レベル向上に向けて取り組んだが、販売期間、人手を確保することが難しかった。
- ・自然体験を含めたツアーを企画して自社サイトでの販売やSNSによる発信を行ったものの、発信力が弱く集客につながらなかった。

3. 目標達成に向けた方策

- ・集客に向けて、新たなスタッフの雇用とスタッフの接客・語学力の向上といった人材育成に注力することで、施設のサービスレベル向上に努める。
- ・自社サイトやSNS等を活用して、季節の情報や地域の魅力など積極的な発信を継続的に実施し、沿線まるごとホテルのファンを増やしていく。
- ・地域住民や事業者と連携して奥多摩地域ならではの体験コンテンツを造成し、宿泊と併せたプランを提供する。
- ・地域住民にも沿線まるごとホテルプロジェクトに参画していただき、雇用創出や情報発信につなげ、地域全体の活性化につなげる。
- ・レストランはターゲットとしている30～50代の集客ができている。加えて、ターゲット以外の層やインバウンドにも訴求していくため、OTAサイトの活用やメルマガ配信等の効果的なPRを検討し、継続的に実施する。

4. 改善状況

- ・古民家改修による宿泊施設工事において、令和6年度内の工事完了に向けて進めていたものの、建設業界における職人の高齢化や職人不足の影響により職人の手配が困難な状況だったため、工事期間を延長して令和7年4月に施設が完成した。
- ・宿泊事業開始前の期間限定プランとして地域の食材にこだわった沿線ガストロミー(ランチコース5500円~/人)及び奥多摩の自然を五感で体験する薪サウナ(22,000円~/2名~/)を営業し、令和6年5月～令和7年3月で約4,000名が来店し、総額3,798万円の売上を出すことができた。質の高いサービス提供や単価を上げることで、体験価値の向上や地域内消費額の拡大に取り組んでおり、宿泊プランにおいても引き続き高品質なサービス提供を目指している。
- ・宿泊棟開業に向け、サービス検討、専門家招聘による自然活用研修及び体験プログラム構築、人材育成等を行い、地域事業者や住民との関係性構築とオペレーション検討、積極的な情報発信を実施した。その結果、令和7年1月下旬より受付開始した宿泊予約は同年5月時点で100件以上(約220名)、売上げ見込みは約1,073万円と好調に推移している。予約の内訳では30～50代の割合が高く、ターゲット設定に基づいたブランディングが確立されている。また、予約経路ではSNSやインターネットからの流入が多く、里山の暮らし体験をベースとしたサービスや体験メニューのPRに一定の効果があったと考えられる。
- ・本事業における人材育成や住民を含めたサービス検討から、実際に地域住民を従業員として採用し、住民ガイド・農作業・清掃作業等で活躍していただいており、地域の雇用創出や関係人口・交流人口の拡大等による地域活性化に向けて取り組んでいる。

事業実施主体名:長谷地域農泊推進協議会

令和7年5月30日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要	取組概要
長野県 伊那市	令和5年度	農泊推進型	農泊推進事業、人材活用事業

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

①評価委員会での評価コメント

- ・マウンテンバイクトレイル体験者数は目標達成できているが、その体験者数が飲食来客数に誘客できなかったのか。また、そのような仕組みが構築されていなかったのか。
- ・冬期から事業を開始するのに、飲食来客数の目標の設定は過大ではなかったか。

②目標達成に向けた指導・助言等

宿泊施設が整備されることにより地域への来客者の増大が期待されるほか、当該施設を生かした魅力の発信を行うことで、飲食施設への誘導に努められたい。

2. 低調と評価された要因

- ・長期間営業をしていなかった飲食事業者である美和食堂を農泊事業を機に再開予定であったが、事業開始直前にトイレが使用不可であることが分かり、店内への飲食誘致が出来なかったことが大きな要因である。(美和食堂付近にも公衆トイレが無いため、ランチ等休憩時にトイレが無い状況でのお客様の飲食は難しいとの判断で飲食スペースを開放出来なかった。)
- ・上記の通り、店内への飲食誘致が出来なかったため、急遽、体験参加者への弁当販売等に切り替え、来客者数93人の成果を挙げたところであるが、美和食堂しか誘客できる場所がなかったため、結果的に店内飲食を見込んでいた目標値240人を達成することができなかった。

3. 目標達成に向けた方策

- ・改修に掛かる資金を調達し、天候を気にせず店内飲食への誘致を図り、飲食来客数の増加と客単価増加に取り組む。

4. 改善状況

- ・改修資金の約150万円の目途が付き、美和食堂のトイレ改修工事が完了した。また、ディナー用途で安心してアルコールを提供できるようになった。
- ・美和食堂が利用可能になったことにより、体験や宿泊への誘客を積極的に行えるようになり、宿泊者数および売上高いずれも目標を達成した。
- ・単発のプログラムではなく、食・体験・宿泊が連携することでコンテンツ全体の魅力が増進し、売上向上に繋がることがユーザーの感想として多く得られた。
- ・農泊事業を活用し、令和6年度に完成した宿泊施設の利用者の感想として「このような自然環境が豊かな場所での宿泊は稀少なので、単価が上がっても泊まりたい」というコメントも多く、宿泊単価を上げる見込みが得られた。